

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立長等小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

今年度は国語科、算数科で調査が行われました。全国平均値と比較して、国語科で9.8ポイント、算数科で8.5ポイント高い正答率となりました。国語科、算数科ともに、どの領域においても平均を上回る正答率となりました。特に記述式の問題形式では、国語科で8.8ポイント、算数科で12.6ポイント高い正答率となり、思考力が大きく育っていることがうかがえました。一方、無解答率の割合は、選択式、短答式、記述式とも全国、滋賀県と大きく変わらない結果となり、課題が見られました。

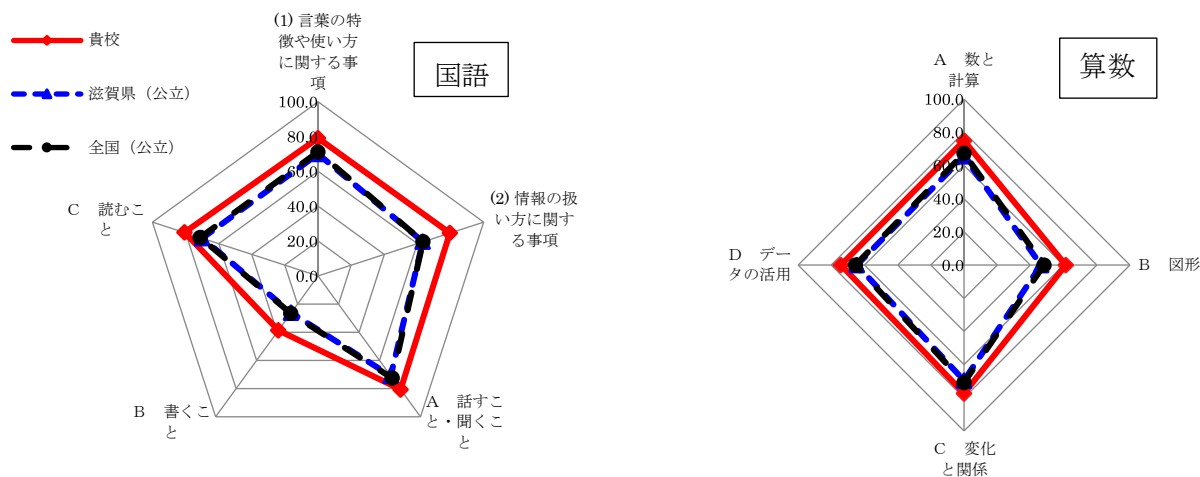
《強み・弱み》

全校で、長等スタンダード学習を実践していることにより、どの領域においても子どもの学力が定着してきていると考えます。また、質問紙調査でも自己や学習の有用性において、9割以上が肯定的に回答していて、子どもが、学習や日常生活に主体的に向き合っている成果が現れてきていると考えます。一方、日々の授業の様子からは、友だちと考えを練り合いながら学びを深める場面では弱さを感じるため、応用力・活用力を伴った知識の習得が今後の課題と言えます。

◇学習指導要領の内容の平均正答率の状況◇

※本校の傾向を見るためのものであり、他校と比較できるものではありません。

(文部科学省からのデータをそのまま掲載しているため、長等小の部分は貴校と表示されています。)



【指導の充実に向けて】

授業では、子どもたちが、各教科の見方・考え方を働かせて問題に取り組む学習を行います。社会科を例にすると、学習で提示された資料を自分の経験や既習事項と照らし合わせて考察することで、応用力・活用力を伴った知識の習得を目指します。

生活科・社会科を窓口到校内研究を進める中で、子どもが学習問題に主体的に向き合ったり、単元のゴールに向かって問題解決学習を進めたりすることができるような授業デザインを工夫します。また、教室での学習が広がりを見せ、子どもが、日常の事物現象と既習事項とのつながりを考察することができるような資質・能力の育成を目指します。

学級会や縦割り活動などの特別活動を推進することで、子どもが互いの良さを認め合い、学校全体に支持的風土が広がることを目指します。